

抗糸球体基底膜腎炎

抗糸球体基底膜腎炎は、血清中または腎糸球体に抗糸球体基底膜抗体（抗 GBM 抗体）をみとめ、典型例では急速進行性糸球体腎炎症候群を呈します。肺出血を合併する場合もあります。CHCC2012 分類では抗 GBM 病の中に含まれます。

臨床的特徴

倦怠感、微熱

腎臓以外の全身症状として肺出血がみられることがある。

関連自己抗体

自己抗体	疾患、病態との関連	MBL 関連製品	診断基準
抗 GBM 抗体	抗糸球体基底膜腎炎、RPGN、	CLEIA ステイシア MEBLux™ テスト GBM	◎

抗糸球体基底膜腎炎の診断基準

厚生労働省「難治性腎障害に関する調査研究」班

1 抗糸球体基底膜腎炎の確定診断 (Definite)

- 1) 血尿（多くは顕微鏡的血尿、稀に肉眼的血尿）、蛋白尿、円柱尿などの腎炎性尿所見を認める。
- 2) 血清抗糸球体基底膜抗体が陽性である。
- 3) 腎生検で糸球体係蹄壁に沿った線状の免疫グロブリンの沈着と壊死性半月体形成性糸球体腎炎を認める。

上記の 1) 及び 2) 又は 1) 及び 3) を認める場合には「抗糸球体基底膜腎炎」と診断する。

出典：厚生労働省ホームページ（2018年3月現在）

急速進行性糸球体腎炎(RPGN)

急速進行性糸球体腎炎(rapidly progressive glomerulonephritis: RPGN)は、腎糸球体に急速かつ激的な炎症がおこり、数週から数か月間の経過で腎機能が急速に低下して腎不全に至ります。最も重篤な糸球体腎炎症候群であり、生命予後も不良、腎予後も不良で維持透析へ移行しない場合も慢性腎不全としての管理加療を要することが大半です。腎炎の中でも最も予後が悪く、治療にも難渋することが多いです。

臨床的特徴

全身倦怠感、微熱

全身性血管炎の部分症状の場合には、上気道を含む呼吸器や四肢の神経血管症状がみられることがある。

関連自己抗体

自己抗体	疾患、病態との関連	MBL 関連製品	診断基準
ANCA	RPGN、ANCA 関連血管炎、	IIF 法 フルオロ ANCA テスト CLEIA ステイシア MEBLux™ テスト MPO-ANCA ステイシア MEBLux™ テスト PR3-ANCA ELISA MESACUP™-2 テスト MPO-ANCA MESACUP™-2 テスト PR3-ANCA	
抗 GBM 抗体	抗糸球体基底膜腎炎、RPGN、	CLEIA ステイシア MEBLux™ テスト GBM	